

景気ウォッチャー調査(平成30年9月調査)の 結果とキーワード分析

茨城県政策企画部統計課 企画分析グループ

茨城県統計課（以下、当課といいます。）では、様々な統計資料を公表しておりますが、中でも、「茨城県景気ウォッチャー調査」（以下、本調査といいます。）は、経済の第一線で働いている県民の方々300人（5地域で各60人）からの生の声を集めており、地域別かつ迅速に景気に対する感触をつかむことができることで注目されています。この調査は、年に4回、3か月に1度（6月、9月、12月、翌年3月）実施しています。

今回は、その直近の調査である、平成30年9月調査（以下、今回調査といいます。）の結果の紹介と、その分析をしていきます。

1 結果の概要

まず、今回調査の結果を見ていきます。

表1 『景気現状判断DIの結果（平成30年9月調査）』

	平成30年6月	平成30年9月	前回調査比
茨城県	49.3	50.4	+1.1
県北地域	51.3	50.0	△1.3
県央地域	49.2	53.0	+3.8
鹿行地域	51.3	47.8	△3.5
県南地域	47.9	53.9	+6.0
県西地域	46.9	47.4	+0.5

DIは、その数値が大きい程景況感が上向きであることを示しており、50が横ばいを表す指標となっています。県全体としては、この50を上回っているので、景況感は上向きであると言えます。

2 結果の分析

本調査は、5段階評価（良くなっている、やや良くなっている、変わらない、やや悪くなっている、悪くなっている）で景況感を数値化するほか、その評価に対するコメント（記述式）で県民の方々の声も反映させており、このコメントが分析の手がかりとなります。そこで、調査結果の要因について、寄せられたコメントのキーワードをもとに分析をしていきます。

■統計の窓

図1 『現状判断コメントにおける出現頻度の多いキーワード』



図1は、現状判断コメントに含まれる単語（名詞）のうち、出現頻度の多いものを掲載しており、各単語の文字の大きさは出現回数の多さに比例しています。

この図を見ると、猛暑や台風などといった、昨年に大きな話題となった異常気象に関する単語が目立っています。しかし、異常気象に関して触れているのは、景気の現状が「良くなっている」「やや良くなっている」とした回答では、65件のうち2件（約3%）であるのに対して、景気の現状が「やや悪くなっている」と「悪くなっている」とした回答では、57件のうち11件（約20%）ありました。

このことから、景況感は上向きであるものの、2018年に起きた異常気象が上向き具合を抑制した主要な要因と考えられ、今回調査結果の大きな特徴であると言えます。

【異常気象に関する主なコメント】

- ・(県西:商店街代表者) この夏の酷暑で売上げが低迷(開店以来最悪)し、台風等の天候の影響もあり、春・秋の季節感もなくなり、悪のスパイラル状態である。
 - ・(県南:旅行代理店) 一時回復傾向かと思われたが、猛暑、大雨、台風、そして地震等私たちの業務形態は、ある意味自然との共存と言っても良いほど切り離せない。自然災害で何件もの取消が発生。

3 統計の利活用

以上のように、統計データは、様々な分析をする上で必要不可欠です。また、複数の統計を組み合わせたり、異なる地域や時期で比較したりすることで新しい状況が見えてくることもあります。当課では、数多くの統計資料を公表しておりますので、ぜひご活用下さい。